

淀川水系流域委員会 様

拝啓 日頃は淀川水系流域委員会の皆様方には自然環境、すべてを含めての取りまとめご苦労様です。

先日（1月28日）淀川建設事務所より2月16日（日）に淀川水系についての提言説明会が宇治東コミセンで開催のお知らせを頂きました。折角のお知らせでしたが、この日は宇治愛鳥緑の少年団の活動日となっておりまして、欠席の旨をお伝え致しました。よって別紙、子供たちの宇治川での活動（移り変わり）一部のみ紹介させていただきます。

河川事業は人命尊重を第1に行われ、私たち人間の生活を水の事故から守ってもらっていることは、子供たちをはじめ若いお父さん。お母さんにも機会ある毎に話しております。

しかし、人間本位のみでなくほんの少しだけでも子供たちが自然の中で水遊びができるような空間を出来ればお願いしたいと思います。

宇治愛鳥緑の少年団を結成した昭和60年頃と思います。ノーベル電子化学賞を受賞された福井謙一博士が当時テレビで城陽の小川で泥んこになって魚取りや虫取りをして遊んだことが一番楽しくよい思い出、その少年時代があり現在があると話さしておられたことを覚えております。

少年時代にこのようにして遊べる環境を少しでも残してやるのも我々大人の役目でないのではと思います。野鳥や自然との共生は口では簡単に言えますが、人間が楽をしようとするれば自然はそれだけなくなります。

宇治川も子供たちが水遊びする場所が段々となくなって来ました。写真にもありますが、子供たちは水の中に入り貝や魚を取る時の姿は何にもものにも勝るものはないと思います。宇治川河川敷きで同じように活動しても7年前、18年前にここで活動した子供たちは魚取り、貝取りが出来ましたが、現在の同じ年代の子供はその場所がなくなり先輩と同じ経験は出来ません。

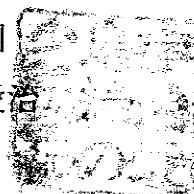
取り留めのない文章になりましたが、宇治愛鳥緑の少年団を今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

尚愛鳥だより、新年号NO・194号 子供たちの活動に目を通して頂ければ幸いです。

平成15年1月30日

宇治愛鳥緑の少年団

団長 中島愛治



当、愛鳥少年団は昭和60年6月に野鳥だけでなく奉仕活動を主に発足、ハトの釣り糸被害調査は昭和63年5月8日より年に何回となく今日まで続いております。当時の子供たちはお父さん。お母さんになっている人も大勢います。子供たちは中学3年で卒団、次々と新しい団員が入り、先輩と同じように清掃活動にも頑張っております。

この宇治川が活動拠点になっており、発足時より淀川伏見出張所の皆様より、大きなイベントの時、会場準備のため河川敷きを使用許可、またテグス捨てないでの看板設置等の許可を頂き、今日までご指導受けております。今後共重ねて宜しくお願い申し上げます。